

日本消化器外科学会雑誌編集後記

第23回参議院議員通常選挙が先般行われたことは記憶に新しいところですが、参議院議員の任期は6年で、途中解散はありません。一方、衆議院議員、首長、地方議会議員の任期は4年とされています。さらに、行政省庁の幹部は2年間で異動するのが慣例になっているようですし、日本消化器外科学会においても、定款で理事は2年、定款施行細則・諸規則で各種委員会委員も2年が任期であると決められています。そして、委員については再任を妨げることはないものの、通算6年を超えることはできないと明記されています。

さて、小生自身はこの8月末で6年間の会誌編集委員の任を終えるため、本号（第46巻第8号）が編集・発刊に関与できる最後の雑誌となります。達成感と侘びしさが混在して複雑な心境ですが、これを機に過去6年間の活動を振り返ってみました。

和文雑誌では最高峰のクオリティーを目指すという本学会の基本方針に則って投稿論文を査読することから、著者に加筆修正を求めるためにはそれ相応の知識が要求されます。浅学非才の身にとっては大きなストレスでしたが、教科書を紐解したり関連論文を調べたりする機会が必然的に増え、結果的には多くのことを学びました。また、学会事務局の会議室に委員が毎月1回集まり、顔を突き合わせて投稿論文の採否を議論するわけですが、査読者の評価が分かれた場合には喧々諤々とした討論が展開されます。その際に初めて耳にするようなホットな情報が得られることもあり、また個々の委員の気概や性格を測り知ることもできるわけですが、これは会誌編集委員にのみ与えられた特権であると自己満足しています。ただ、小生も本年4月の異動に伴い遠隔地からの委員会出席となりました。東京近辺以外の委員には、制約を受ける時間が長くなり負担が大きい業務であることも肌で感じました。

いずれにしましても、貴重な機会を与えていただき、6年間の業務を無事に全うできたことは、関係諸氏および本学会会員の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

(杉山 保幸)
2013年8月1日